

## 原子力リスク研究センター（NRRC） 第21回 技術会議 議事録

1. 日 時：2018年7月20日（水）15：00～17：00

2. 場 所：電力中央研究所 横須賀地区 新本館1階 大会議室2

3. 出席者（順不同、敬称略）

主査： 横尾（NRRC）

委員： 笹田（北海道電力；勝海代理）、遠藤（東北電力；金澤代理）、  
谷・山本（東京電力HD）、伊原・中川・浜田（中部電力）、  
上野（北陸電力）、吉原（関西電力）、池田（中国電力；林代理）、  
西村（四国電力；黒川代理）、米丸（九州電力）、近江（日本原電；石  
坂代理）、大柿（日本原燃）、鞍本（電源開発）、薄井（東芝）、  
今野（日立GE）、山岸（三菱重工）、多田（電工会）、倉田（原安進）、  
高橋・岡本・白井・梅木・稲田・山本・朝岡（NRRC）

4. 議事概要

(1) 2019年度研究計画について

○NRRCより、2019年度の研究計画について報告がなされた。

（主なコメント ◆外部委員、◇電中研委員）

◆過酷状況下の分析モデルを整備してHRAを高度化し、津波PRAプロジェクトとの連携強化を図るとのことだが、具体的にどのように連携させるのか。

◇人間の認知過程と行動過程をきちんと分けて評価する内部事象用のHRAガイドを作ったが、それをシビアアクシデントや津波・地震の時の過酷状況下に広げていこうという考えである。

津波PRAに関しては、津波が来た時にどういう部分が大変な状況になるかを考えて、建屋の水密扉の閉め忘れというようなものを幾つか抽出して、どのような事象が起こってそういう状況になるかを調べるということがガイドに沿った方法になる。連携というのは、現場の方々にプラントの状況や、あるいはどのように人が動くのか、事細かに直接話を伺っている。

◆ロードマップに記載されている研究開発の成果を、取り入れられるものは具体的に評価・解析に取り入れる。その結果を踏まえてモデルの改良・更新を加えていくということか。

◇そのとおりである。得られた研究開発の成果を、適宜モデル等の改良・更新に反映させていきたいと考えている。

(2) NRRCの活動状況について

○NRRCより、リスク情報活用推進チームの活動状況と「リスクマネジメントに関するワークショップ（案）」について報告がなされた。

以上